

第6回 第5次門真市学校適正配置審議会 議事録

開催日時 令和6年11月25日（月） 午前10時～午前12時

開催場所 門真市役所本館2階大会議室

出席者 新谷 龍太郎、西 孝一郎、横山 俊祐、吉岡 眞知子、岡本 富男、勝川 喜美子、川村 早余子、小阪 和之、後藤 忠夫、日置 芳太郎、船越 叔美、本田 貴裕、山田 颯、植原 宏仁、脊戸 利子、邨橋 雅広

事務局 八木下教育長、水野教育部長、峯松教育部教育監、大倉教育部次長、井手教育部総括参事、渡辺教育企画課長、高岡教育総務課長、高山学校教育課長、宮崎教育企画課課長補佐、古川教育企画課兼学校教育課副参事、藤澤教育企画課主任、奥本教育企画課主査

傍聴者 1名

議 事

○開催 事務局

定刻となりましたので、第6回門真市学校適正配置審議会を開催いたします。

本日はご多忙の中にも関わらずご出席頂きありがとうございます。本日、司会を務めます、教育部教育企画課の藤澤と申します。宜しくお願いいたします。

本日は、第4回のワークショップと同様にワークショップ形式で各グループによりご議論いただくため、このような配席となっています。18名中16名がご出席されており、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

本日、藤田委員はご都合がつかず、欠席となっております。平生委員につきましては遅れて来られることになっております。なお、本日、傍聴者は今のところおりません。

次に、お手元の資料の確認をしたいと思います。

- 1点目 会議次第
- 2点目 資料1 第5回審議会のふりかえり
- 3点目 資料2 答申案
- 4点目 資料3 ワークショップを行うにあたって
- 5点目 資料4 現在の中学校区ごとの基本情報です。

過不足ございませんでしょうか。

それでは、本日の以降の進行は、会長にお願いしたいと思います。会長よろしくをお願いいたします。

会長

皆さんおはようございます。前回は台風の影響でリモート参加になってしまい失礼しました。本日はワークショップをしながら中学校含めて全体の学校の再編について検討するというのが1番大きな仕事でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

では早速ですが、議事次第に従って会議を進めたいと思います。

まず、第1の議題として、前回のふりかえりを行いたいと思います。資料1をご覧くださいになりながら事務局より説明をお願いします。

事務局

案件1.「第5回審議会のふりかえり」について説明をさせていただきます。

資料1をご覧ください。

まず、第4回WSを受けて、第5回の審議会で議論したいことについてですが、今後の審議会については、現状配置からの再編や将来の配置、どちらもそれぞれ大切ですが、近々で、建物の問題でも、児童生徒数でも手を入れていけない学校がある。

一方で、限られた予算をいただいている中で、行き当たりばったりの、その場しのぎの再編も行いたくないと考えております。

つきましては、本審議会では、「今と将来両方を見据えた再編」について検討をしていきたいと考えているということをお伝えしました。

また、学校を再編し、門真のめざす、人とのつながりを大切にした教育を実現する上で、「中学校をどう配置するのか」、これが非常に重要になってくると考えております。そこで中学校の学級数を見ていきました。するとなんと、令和7年にはすべての学校が3クラス以下の小規模校ということになる予想がされています。右面に行きます。

一方、学級数が減ってきているものの学校数の現状を見ていくと、児童生徒数に比べ、「学校の数」が非常に多い状況にあります。

このような状態では、1つの学校にけることのできる資源が分散し、門真のめざす教育などを実現する上でも、非常にデメリットが多くなります。

このような点から、今後の子どもの数の推計と照らし合わせたときに、小学校では3クラス程度、中学校では4～6クラス程度を理想とした場合、おおよそ小学校については、6～7校、中学校については3～4校程度が望ましいのではないかと考えていることをお伝えしました。

次のページです。そして、具体的なエリアのイメージを事務局よりお出ししました。現状の6エリアから徐々に減らしていった場合、そして第4回のWSでは、最終的には1小1中というグループもありましたので、そのイメージも、案ではありますが、お出ししました。

そして、事務局としては、これまで議論して決めてきた「基本的な考え方」や「学校規模」を踏まえると、今と将来両方を見据えた本審議会での検討については「4エリア程度」のエリア分けをもとに再編を検討してはどうかと考えていますという旨をお伝えさせていただき、それを含め各委員からご意見やご質問をいただきました。

それが次のページです。

委員の皆様からは、

「4エリアでよいと思うが、その後、2エリアにする際、東西なのか南北なのかをイメージした上での4エリアを考えた。」という意見や、「エリア分けなどはよいが、何より「不登校の子の居場所を大切にしてほしい。」といったような意見、「それから、中学校の運営としては、3クラス以下だと、1人の先生が、本来1学年でいいところを2学年の授業を持つ必要が出てくる。より質がよい授業を日々行う上でも、クラス数は4クラスは少なくともほしい。」や「もちろん試算はしないといけないが、将来はもっと多国籍化していることも予想されるので、単純に試算することが難しい。」また、「基本的な考え方を踏まえると、3〜4エリアは妥当だ。」という意見などをいただきました。そして、先ほども出ましたが、「学校に通いづらい子の居場所をエリアの中間などに置けないか」というような意見などもいただきました。

これらいただいた意見から、本日はこの4エリアに分けることを前提に、具体的にどう分けるのか、中学校の配置が最大のポイントとなると思いますので、そのあたりも踏まえたうえでWS形式でお話したいと考えております。

以上が、第5回審議会のふりかえりでございます。

会長

ありがとうございました。

これが前回の議論ですけども、前の会の第4回でWSをやって、主に小学校を中心としてこれからすぐ考えなくてはならないような学校の再編についてご提言いただいたりあるいは1小1中という遠い将来についての可能性についてご検討いただいたりしていましたが、もうちょっと長期的なビジョンを出すべきではないかということ。加えて、中学校の再編については前々回のWSではほとんど議論になっていなかったのですが、よく見てみると、中学校についても危機的な状況になっているということはこの資料に書かれている通りです。それを踏まえて、今回のWSで全体について中学校を含めてどういう風に再編するか前回の議論で4つぐらいのゾーンでいいのではないかと。ふりかえりの1枚目の中学校の規模をご覧くださいと、令和12年で6校の中学校を合わせると48クラスになる。規模として各学年4クラスくらいと考えると、ちょうど4校が適正である。前回で議論した4つのゾーンで考えてはどうかということと、数がある意味整合してくるということもありますので、本日は4つのゾーンを中心にお考えいただきたいと思います。それに沿って、どう学校を再編していくのかということについて考えていただきたい。そういう前提に立っての今日の議論ですが、その前に今回6回目の審議会ですが、残すところあと2回となりました。私どもの役割は最終的に答申を出すということになっていきますので、答申についてもそろそろ考える必要があるのではないかとということで、具体的な中身については今回の議論やそれ以降の議論も含めながら最終的に具体的な学校の再編については提言することになると思いますが、これまで議論してきたいろんな再編に関する骨組みとか基本的な考え方ですね、そういうのについてはもうそろそろ固めておいた方がよいのではないかとということで、お手元の資料2に、答申案という形で用意さ

れておりますので、これについて事務局からご説明をいただいて皆さん方、こういう方向で答申案というのは作成するのだなということをご理解いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

事務局

教育企画課の古川です。私から答申（案）について説明をさせていただきます。お手元に資料2と書かれたものをご用意ください。なお本日はWSに時間を割きたいため、資料編は除いた答申そのものの概要を手短にお伝えさせていただきます。もし、後日などに読み返されて気になる点等ありましたら、事務局あてにご連絡いただけるとありがたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは内容について、手短にご説明をいたします。目次に基づいてご説明をいたしますので、適宜、必要に応じてめくりながらお聞きください。

まず、これまで何度もご確認いただいている、「基本的な考え方」の前提でもある、「令和の日本型学校教育」についてや縦横将来などの多様な「人とのつながり」を大切に、「門真のめざす教育」について述べております。

しかし、めざす教育以外にも、学校の再編を行う必要がある要因がございます。その要因として、5ページ以降です。第1回審議会からお見せしてきました、「児童生徒数の減少」や「老朽化した校舎」について、そして学校の状況だけでなく、「まちづくり」も大きく変化している点、それでも旧4つの村にあった小学校から門真の学校分離の歴史は始まり、今でもその旧村の4校については、150年以上の歴史を歩み続けている点、そしてこれらの学校再編が必要な背景を整理し、まとめたものが、4の「今と将来両方の学校のこれから」で述べている「学校再編にあたっての基本的な考え方」の6つでございます。これが10ページ以降続きまして、現在、まさに検討しているのが6の「門真市全体の学校の将来像を踏まえた検討」でございます。

そして、12ページからです。

このように4つのエリア分けをした上で、門真市全体の学校の将来像を本日のWSで検討していただく予定をしております。そして本日のWSで話し合った内容や第7回審議会でも話し合った内容が、次の13ページ以降の「具体的提言」に記載されるといった流れでございます。

本日は手短なご説明となりましたが、今後、7回目・8回目につきましては、今日よりも丁寧に「具体的提言」を中心に見ていただく時間を取ろうと考えておりますので、よろしくお願いいたします。私からの説明は以上です。

会長

ありがとうございました。そういうことで、まだ具体的な中身は13ページ以降に今後の議論も踏まえて記述されるということで、その前に12ページまでは、今まで統廃合を何のためやるのかとか現状はどうなのかということについて皆さん方で議論検討していただいたと思いますので、そのことについてまとめられているということですが、これに関して何かご意見とかご質問等あればいかがでしょうか。よろしいですか。これまでについては何度もやっていますので、一旦これはご確認いただいたということで、お気づきのことがあれば、この会議でもいい

ですし、事務局に直接ご連絡していただいても構いませんので、今後これを良いものに仕上げていくために皆さんご検討いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。答申については以上ということです。

では、本日の主題でありますワークショップを進めていきたいと思います。先ほど申し上げたように、前回、4つぐらいのエリアがいいんじゃないかということで、事務局から提言あったことについて、皆さん方も、ほぼそれは了承していただいたのかなと思っております。具体的に4つのエリアというのをどういう風にしていくのかについて、今日は、ワークショップで具体的にご提言をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。まず、ワークショップにあたっての説明を事務局からお願いしたいとおもいます。

事務局

引き続き、ワークショップを行うにあたり、留意点と情報提供を含めて、私の方からお伝えさせていただきます。資料3をご覧くださいながらお願いします。まず、本日のワークショップのゴールをお示しさせていただけたらと思います。本日、ワークショップでは、グループで各エリアの学校の再編を考えて、その内容を模造紙に記載していただけたらと思います。このエリアだけ議論しましたとにならないように時間がない中ですが、4エリアとも時間内に、なるべく全てのエリアを検討していただきますようよろしくお願いいたします。

なお、将来的に2エリアとか3エリアを見据えて検討していただくことは構わないんですが、本日はあくまで4エリアをどうしていくかをゴールにしておりますのでその議論からはずれないようにご留意いただけたらと思ってしております。続いて、ワークショップを行うにあたっての留意点がございます。まず、エリア毎、それぞれに、学校配置を検討していただきますが、前回までの審議会の内容や委員のご発言にもありましたように、適切な学級数、小学校で言うと3クラス程度、中学校では4から6クラス程度を維持するためには、地域によって児童生徒数の差はあるかなと思うんですけれども、現在、小学校13校、中学校6校あるところから、小学校は6、7校、中学校でいうと3、4校にする必要があるのかなというところでございます。数の議論ありきで再編は考えたくないですけれども、1エリアあたりで分かりやすいように考えていきますと、中学校で行くと4エリアなので1校程度、小学校では1～3校程度またはそのエリア小中一貫校1校だけといったような1エリアあたりの配置を本日はこれを基に検討していただけたらなという風に考えております。

なお、今ある学校の敷地に小中一貫校が仮に建てられるのかなといったような質問が具体的な再編を考えていく中で、もしかすると湧いてくるかもしれないですが、1つ1つの学校によって、立地や周辺環境が色々違ってくる場所もあるので、本日ここで話すのは時間の都合上難しいと考えております。グループでもし、そのような話が出ましたら事務局の方から個別にお伝えさせていただけたらなと思いますので、お声がけいただけたらと思ってしております。

続いて、ここからが参考資料でございます。

まず、もう説明不要かなと思うんですけれども、基本的な考え方でございます。①の実現のため、②③④⑤を手掛かりに今⑥を考えているところでございます。

続いて、②の児童生徒数と③の校舎の老朽化でございます。上から順に築年数であったり児童生徒数、減少している学校であったりを並べさせていただいております。続いて、④の「まちづくり」についてです。こちらも話を割愛させていただくのですが、大きく変わるとしているというところがございます。そして、⑤の「これまでの学校の変遷について」で旧村（門真・大和田・四宮・二島）から分離してきた歴史がございます。このような歴史についても一定、ご考慮をいただけたらと思っております。ここまでの基本的な考え方についてのおさらいでございます。

続いて「校区」についてです。校区、つまり今回でいうとエリアになるかと思っております。現在は、4エリアがグラデーションになってぼやっとしていると思いますが、本日のWSでは、具体的にどこからどこまでが、そのエリアなのかも含め、検討し、マーカーで囲むなどして考えていただきたいと思いますと考えています。

なお、この小学校区は考えていく中で、「北と南で分けたほうが…東西で分けた方がいいかな…」などなった際には、既存の校区にとらわれず、思い切って、その考え通りマーカーで囲っていただいて構いませんので、よろしくお願いいたします。

校区について、あと1点情報提供がございます。先日、門真市宛に、これまでも要望されておられるのですが、校区割についての要望書が出ております。それが、門真みらい小校区でございます、小路町にある西小路という自治会からでございます。内容としては、通学距離等の観点から、門真小に通学できないかという旨の要望でございます。どのようにしていくのかは今後、教育委員会等で検討を進めていきますが、将来的なエリアごとの学校配置を検討するうえで、少しお知らせいただけたらと思っております。

いよいよここからはWSのお話しです。各グループの机に模造紙を今から配布させていただきます、各エリア1枚ですので4枚と、4枚に記入した後、今までの4校のエリア分けや情報を1枚に整理していただく用の模造紙の計5枚をお配りいたします。どのようなエリアにするのか、またその際、どのように学校を配置するのか、エリアごとではなく門真市全体の地図をあえて載せているので、全体を俯瞰しながら話し合い、ペンで校区となるエリアを囲んだり、文言を記載したりしてください。ふせんも別途用意しておりますので、適宜必要に応じてご活用ください。また、最後にまとめ用の5枚目の模造紙を用意しておりますので、各エリアの模造紙については、書き損じなど気にせず、どんどん記載して行っていただけたらと思っております。

なお、個別の学校の情報については、R6年度版に数字変えました資料4「中学校ごとの基本情報」に記載しておりますので、こちらにも必要に応じてご活用ください。

最後のスライドです。こちら、今までの説明の要点を載せております。WS中、前の画面に映しておきますので適宜ご確認ください。長くなりましたが、私からの説明は以上でございます。

会長

はい、ありがとうございました。今のワークショップの進め方についてのご説

明、何か質問とか、ここはわからなかったというところございませんか。よろしいですか。ワークショップをやりながら、適宜わからないところはお質問していただくということで。

本日の取り組みとしては、考えれば考えるほど難しい検討になると思います。ただ、具体的な実現方法やスケジュールなどは大枠が決まった段階で詳細なことは決めていこうということになっておりますので、本日は、気楽にという語弊があるかもしれませんが、地域や学校をよくご存じの皆さん方に門真市の学校全体をどういう風にした方が良いのかということをお自由に検討いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、質問がなければこれからワークショップを始めていただきたいと思います。予定時間はどれくらいですか。

事務局

ワークショップとしては1時間取らせていただこうと思います。また適時お声掛けさせていただきます。

事務局

おおむね今10時25分なので、11時25分を目途に取りまとめをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(各グループがワークショップ形式にて議論)

会長

3グループとも時間通りに見事にまとめていただいてありがとうございます。まず最初に、各グループどういう考えでこういう再編の案が出てきたのかについて説明していただいてその後、お互いに議論をしながら中身を詰めていきたいと考えます。まずAグループ3分くらいで説明をお願いします。

委員

4つに分けるということで、優先順位を一応つけました。北東エリアの1番小学校の古いところが密集しているところを、新しいいいのにしてあげたいということで、優先順位1番目なんですけど、ここに一貫校を建てるかどうかは別として上野口小の敷地に高層化した美しい小学校を建てて、これが小中で統合できるんだったら、いっそ二中也潰してここに1つ建てて、新しいから使い続けるか、子どもが減ってきたらここに結局最終的には統合するけども存続しといても良いのではないかと。

優先順位2番目がこれは難しいですけども、南西エリアでまだ廃校になっていませんけども門真西高校が廃校になったら、門真西高校の跡地の場所が1番良いので、そこに凄く良いのを建てて周りの地域の人みんな入ってもらうのが良いな。それまでは使い続ける方式もあるけどということですが、これも一気にした方がいかなと思います。

優先順位3番目が北西エリアのところですが、校区を分けるのに、速見が揉め

るかもしれませんが、子どもの通学の安全を考えて 163 号線で切るということに納得していただいて、はすはなも最終的にもう何十年も先にはボロボロになって使えないぐらいになった時に 1 個良いのを建ててみんな来てもらうのが良いというような案です。最後の南東エリアはわざと校区にまっすぐに引いています。切れないところを切って揉めるなど思いながらもすごい減ってしまう。揉めるんだったら、自由にどっちに行ってもいいよという校区をしてあげると親も納得するので、美しい水桜にみんながその学校が良いと言って来てくれる人を入れてあげた方が数的にはちょうど良くなるかなという案です。以上です。

会長

ありがとうございました。続けて B グループお願いします。

副会長

B グループですが、まず固定していくところから考えました。水桜のエリアについては、東小は割と行きやすいかなと思うので、この中学校校区外ですけども、東小学校全域を水桜のエリアとしてはどうかなということでした。

次に、北西のエリアでこちらは先ほどの A グループと同様に 163 で校区を分けたら良いのではということでした。門真小と速見小を統合して門真小の跡地に小学校を新設すると、あとの基本的な考えですけども、小学校を駅近にして人集めて中学校は小学校と比べて駅から離れていてもかまわない。不動産を買ってもうらう際に小学校と駅近というのは人が増えやすいので、そういう考え方が良いかなと思いました。

次は北東エリアで大きな統合ですけども、古川橋、上野口、大和田、沖の 4 校統合で、これも駅近という考え方で、大和田駅近くの上野口小の跡地に新校新設ということで 2 小となります。中学校はどこにするのかということですが、1 番広いのが沖小の跡地なので、ここに中学を新設するという形で、駅からは遠いですが、エリアとしては割と真ん中に近いかと。

それから、南西エリアですが、これもやはり国道 163 号線で分けるということについてですが、五月田小と七中の跡地ですがここは隣接していて大変良い跡地で敷地が 36,000 m²もあるので、水桜と同じ面積が取れるんですね。そこに小中一貫校を新設して備えればいけるかなと。第三中のこのエリアが 2 つに分かれることについては、まだまだ議論があるかなと思うのですが、もともと大和田から派生して学校が出来て行っているんで、この辺の統合については可能だろうと考えました。

会長

ありがとうございました。では、C グループお願いします。

委員

C グループは、とにかく保護者に説明する際にわかりやすい方が良いでしょうということで、まず 163 と川で切るということで北西が決まりました。ここはどうあっても子どもは増えていくと思うので、なんとでもなるだろうと。はすはな中

学校を中心にやっていってもらいたいと思います。

次の南東エリアについては校区が決まっている水桜学園のところは決めておこうと思います。

次の南西エリアについてもモノレール延伸によって二島小学校や人口が増えていくだろうということでどう再編していくかというのは、エリアの中心となる五月田や七中ぐらいのところに1つ学校を作っていく形がいいんじゃないかという風な話をしていました。

難しいのが北東エリアで、どうあってもなかなか難しいなと、上野口のところの立地がすごく狭い道路のところでなかなかここに適正配置するのが難しいかなと、いざ適正配置しても多分減っていくので、本当は中心の位置に中学校があれば求心力ができるんですが、なかなか良い土地がないかなみたいな話をしていると、中心の位置に病院があったよと。ここであれば萱島駅から近いので、そのあたりに学校ができてくると良いよねという風な話をしていました。ちょうど市の中心地にあるので、その敷地を活かして不登校支援センターとか、何かそういったところを施設利用する形で大和田を残していけば良いのかなという風な話をしていました。ただ、こちら高層化するにしても、騒音問題とか日照権など周辺状況を配慮する必要がありますし、やはり歩道の整備というのがありきじゃないかという話もありました。

南東エリアについては交通の便が良くないので、トップ構想みたいな感じで、全域から取れるようなマグネットスクールみたいな形の方がいいのかなみたいな話もありました。境界線にあるところは、どちらにしても、移行期間としてどちらも行けるようにした方がいいよという期間は設けないとダメだろうなという話がありました。以上です。

会長

はい、ありがとうございます。3グループ三様ですけれども、共通点も結構ありまして、実は、北西エリアは見事に3グループとも同じ意見でした。門真みらい小学校、速見、門真を中心としたエリアは3案とも同じなので、これはこれで1つ説得力のある話かなと思いました。その上で、次に類似性があるのは水桜学園エリアで、Aグループは水桜学園の子どもの数が減ることを想定しつつ、沖小と二島の一部エリアもこっちに入ってきてはどうかという将来的にはそういうことも考えられる話ですが、基本的に東と水桜で1つを作る、それから、Cグループは東と水桜で1つ作るけれども、足りない分は自由学区制でとにかく子どもを補うと。だから、将来的に水桜学園というのは子どもの数が減るだろうというのは皆さん共通の認識だと思いますので、それに対してどういう対応をしていくのかということが、今後学区を変えていくというのは1つの方法ですし、自由学区制、学校選択で行けるようにするっていうこともあるかなと。その違いだけでこの人数保持についての考え方を今後深めていくという必要があると思います。

残りも2つのエリアが非常に難しいところもありますし、考えなくてはいけないところがあるんですが、違いはこの沖小学校ですね。この沖小学校をどのグループに入れるかっていうのがそれぞれ違っていてAグループは沖小学校を分けて北のエリアと水桜エリアで考える。それからBグループは北のエリアに一緒

に考える。逆にCグループは南のエリアで考える。さっき説明があったように皆さん方共通の認識として、この163号線と古川というこの2つの軸をベースにして4つのゾーニングを考えているということで、これはそういう意味では、この163号線から南でまとめるという考え方ですし、これはおそらく現状はこっちの仲間なのでこっちに入れる、これは思い切ってこっちにも入るしこっちにも入るっていうそこが違って、あとはほぼ一緒ではないかと。この沖小学校をどうするかということなんですが、少しお互いにこちらの案が良いんじゃないかとかそういうご意見ありましたら言っていただきたいんですが、Aグループは沖小学校の分割という話についてこういう考え方はどうやって出てきたんですか、沖小学校の分割という話し。

委員

新しく校区をどうしようかという問題なので既存の所にこだわらずに子どもの人数も考えると、線を引くべきかなという話でした。

会長

どちらの校区に入れようとも結構どちらも大変だという考え方ということですね。

会長

Bグループはどうですか。

副会長

古川橋小、上野口小、大和田小、沖小が統合にという案ですけど、この統合の前段階で163を挟んで沖小の南の方の子たちは四宮北巢本の新設校に行って上野口の跡地に3校の生徒と沖小の北の子たちが行くというのが小学校の間は163号線は渡らないとする。中学校だったら渡ってもいいと思います。

会長

基本的に道路横断しないようにということですね。ちなみに四宮北巢本小学校は今後児童が減る可能性が大きいところですか。

事務局

駅から少し離れたところにありますので推計上は減る予定です。

会長

Cグループは旧来の中学校区を崩してこっちに行くということですが。

委員

163号線の道路で分けるということです。

会長

163号線の道路で分けるということを大切にする。どれがいいかというのは難しいところで、それなりに合理的な考え方だと思うんですね。だから、少しここだけは検討していく必要があるかなと思います。そのうえで、今度は中学校に関して、ちゃんと書いてあって水桜、はすはな、できれば門真西高跡、難しかったら七中という考え方。それから、北東エリアの中学校をどうするかというのが難しくて、上野口エリアの中心に近いので、ここに置いておくという考え方ですね。これで検討しようということですし、これは中学校はどう考えているんですか。

副会長

沖小跡地に中学校新設です。

委員

Cグループは七中跡地にしたら良いかなと思いました。二島に関してはモノレール延伸による影響により増えるなということで中心の七中跡地にしてはどうかと考えました。

会長

第二中学校と第三中学校の2校は七中跡地で統合するということですね。北東エリアはどう考えますか。

委員

どんどん移行して行って最終的には萱島の駅の南の病院あたりに1つ学校ができたかなと思います。五中の位置は遠いので。

会長

五中の場所は遠いので変更は求められるというのは共通のお考えだとして定義づけられると思います。他は七中と五月田を一緒にしてこれは敷地は完全につながっているんですか？

事務局

道路が間に走っています。

会長

BグループとCグループで七中と五月田小で学校を建設にするという考え方が共通しています。また、Aグループの西高跡地に一貫校ということでこのエリアはほぼ共通した考えで施設一体型の一貫校で整理していくという方針はほぼ共通だと思います。というので、そこまでは良くできた案だと思いますが、最後に小学校についてこれからどういう風にお考えかというのをご説明いただけますか。

委員

Aグループですが、×しているのがなくなるところです。

会長

古川橋はなくなって、みらいか速見も 163 より北側は門小に行くことで徐々になくしていったという考え方ですね。また、南西エリアは一貫校で全部まかなうという考え方ですね。北東エリアはどうですか。

委員

小学校は全てなくして、二中もなくして、上野口で一貫校としたいです。五中は残しておいて、四宮北巢本の学校にしておいて、上野口の方にとっても良い一貫校になったらみんなそっちに行きたいとなると思います。

委員

上野口小に一貫校を作るにあたって、しばらくの間、大和田小に移って、最終的には上野口小学校の土地に一貫校を建築し大和田小をなくすという方法です。

会長

エリア的には上野口はとても良い場所なのでそういう考え方ですね。沖小も一緒ですね。Bグループの北西エリアの小学校はいかがですか。

副会長

北西エリアの小学校は門真小と速見小を統合して門真小の跡地に小学校新設。門真みらい小学校と新設の学校ではすはな中に行く、2小1中です。南西エリアは小中一貫校、北東エリアは古川橋、上野口、大和田、沖小の4校統合し、上野口小の跡地に小学校建設し、沖小跡地に中学校新設、四宮北巢本の統合校の子も南のエリアの子も 163 で分けてもいいかなと思います。

会長

ちなみに沖小跡地に中学校が出来たとして現二中校区の人は校区が変わらないので問題ないと思いますが、四宮北巢本の校区の人たちは沖小跡地の中学校まで来るのに抵抗はあると思いますか。

副会長

前に出ていた将来的に最終1校とか2校となった時にエリアの真ん中の方に近づけといった方がいいと思います。

会長

中学校の場所を北東エリアはどうするかっていうのは課題かなと思います。

委員

と、すると五月田小と、七中と二中が距離が近いのでどうかなと思います。そのため、西高の跡地を利用できるなら、その方が場所としていいのではと思います。

会長

小中一貫の問題は単独の小学校があつて小中一貫と中学校に入る時に小中一貫の子はそのまま上がっていただけますが、単独の小学校の子は新しい学校に入るといふ違いをどうするかという問題があつてそこを上手く克服できれば小中一貫といふのは大いにあると思います。

委員

その軸は教育的に小中一貫であれば良いと私は思っています。建物が一緒といふのは可能であればなおいいですが、難しいと思うので、カリキュラムとして小中一貫のカリキュラムをその範囲の中で行う、内容としては一緒のものを小学校で受けて中学校で2小学校が一緒になる。

会長

小中は一緒の建物に入っているが基本的には分離型の教育を統合した学校と四宮北巣本で行ってやっていくということですね。

委員

はい、一旦2つの小学校で同一のカリキュラムを行って、内容的にはそのつながりを受けて中学校があるということです。

会長

わかりました。ありがとうございます。
Cグループはどうですか。

委員

古川橋はみらい小まで歩いていけるので、問題ないかなと思います。大和田と上野口どうするかという話でおそらく上野口の方に移行していく流れじゃないかなという話しでした。

委員

北西エリアの163の南側の速見小の地域と南西エリアとして今後は減っていく見込みである沖小と五月田小と一緒にしてはどうか。下の二島小学校はモノレール延伸やタワーマンションの建設の構想が出てきたりしているので、増えるかもしれないので、2校としておき、ゆくゆくは1校にできたらなと思います。

会長

北東エリアとしてはやっぱり上野口小の跡地に立地的には1番良い場所であるといふのは3グループとも共通だと思います。皆さん同じ課題の認識があつてそれに対して多少解決の方向が違う程度でほぼ共通認識として捉えられるんじゃないかなと思います。

委員

すみません。1点だけ確認なんですけど、令和8年に幼保連携型の認定こども園の大和田こども園が出来るんですが、敷地がどれくらいあるのか知りたいです。大和田小学校と上野口のちょうど真ん中くらいにできるそうですが、出来たら幼小連携がそこで出来るというのがあった方が良さなと思います。

会長

いかがですか。

事務局

現在の敷地の中で改修工事をして、一旦上野口の方に行っていて、改修工事が終わったら大和田に戻るという形なので、面積としては変わらないです。

会長

面積としてはどれくらいですか。3,000とか4,000くらいですか。

事務局

広くはないです。

会長

買い足すことができるか、そのための良い土地があるかを検討する必要があるのかもしれないですね。

委員

水桜学園のところなんですけど、希望があれば校区を離れて行くことも可能にしようかという意見も出ています。というのも水桜がもう少し減っていく可能性があるんで校区にこだわらず、希望があれば試しに入学できるという枠を作ってはどうかという意見がありました。

私は、今後多様な子どもが入学するには、保護者がある程度縛られずに選べるという感覚は大事だと思うので、試しに実施すると、将来的には校区に縛られるという意識はだんだん減っていくんじゃないか。また「校区」の認識も変化するなど、不登校の子どもやその他様々な理由で選択できる校区があれば通学できる学校選択の幅が出てくると思うのでいいのではないかと思います。

会長

先ほどCグループも同じような意見が出てきて水桜は特認校として選べる学校として地域全体から通えるようにというのは検討に値すると思います。特に南東エリアの人が減ったという時に使いようがないのでそれをどうするかということを含めて検討できるかなと思います。

委員

大和田の駅前に空き地があるという情報が今あるんですか。

委員

狭いですよ。銀行の跡地ですね。

会長

銀行の跡地では、学校の規模とは違いますね。他にいかがでしょうか。

事務局

先ほどの大和田幼稚園の面積の件ですが、約 2,000 m²です。

会長

他に何かご意見とかいかがでしょうか。

委員

以前言ったことですが、水桜を特例校として希望者を入れるとすると水桜に一時的に人が多く集まる可能性があります。素晴らしい教育をしているとなると、そこに入学したいという希望に応えるために学区制そのものをもう少し緩やかにした方がいいのではないかなと思います。それと同時に、各校がそれぞれ特性を持った学校として親にアピールして選んでもらえるようにすれば徐々に学区制が消えて行って、「門真は子どもにあった教育をしてくれる学校があるよ」という形にもっていくというのはこれから先考えていっても良いかなと思います。

会長

なるほど。それぞれ特色ある学校を作ってある意味全体が 1 学区になって、そこから選べるということですね。それ面白いですね。

他にいかがでしょうか。

では、今日の 3 つの案をベースにしてこれでいかがでしょうかという案を次回の審議会に出したいと思いますのでご検討いただき学区の編成については固めていきたいと思います。あと、優先順位については A グループ出してもらっていますが、他のグループはどうですか。

委員

妥当でいいんじゃないですか。

会長

2 つの学校の統合などはこれに併せて考えていくという方向で進めていければいいなと思います。

委員

A の南西の二島区域ですがまっすぐの道がなく、三ツ島、ひえ島、桑才は 1 つの村となっているので区域を少し変更してはどうかなと思いました。

会長

ここは人数が減るところの対応は考えておられたので。

では、先ほど申し上げたのでこれでいかがでしょうかという案を出すのでそれで最終確定したいと思います。

本日はどうもありがとうございました。